

弘前市岩木地区の住民を対象にした大規模な追跡調査「岩木健康増進プロジェクト」の今年度健診が3日、岩木文化センターあそべるを主会場に始まった。今年度は新型コロナウイルス感染が落ち着いたことから受け付け人数をコロナ禍前の規模に戻し、12日までの

岩木健康増進プロジェクト

10日間で約1000人が参加する。顔と腕の皮膚の潤いや張り、色などを測定する資生堂や、体内の「焦げ付き度」を調べる初参画の雪印メグミルクなど、大手企業を含む49のブースが設けられ、約3000項目の健康データを収集する。

（石田紅子）

住民1000人 3000項目調査

弘大中心に19年目健診

顔と腕の肌の潤いや張り、色などを測定し
違いを調べる資生堂のブース



健診は弘前大学が中心となっており、今年で19年目。初めて事務業務を一

大手企業含む 疲労度など初測定

部デジタルトランスフォーメーション（DX）化し、受診者はQRコード付きの名札を携帯して各ブースで読み取ることで、各ブースの受診状況などがひと目で分かるようになった。

今年初めて調査する項目は、疲労度を調べる皮膚ガス測定や認知症との関連があると考えられる嗅覚機能測定など。中でも雪印メグミルクは、体内に蓄積した終末糖化産物（焦げ付き物質）を腕に特殊な機械で光を当てて測定し、生活習慣との関連を調べた。

参画2年目の資生堂は、昨年自粛した顔の肌の測定を初めて実施。測定後には希望する受診者に美容部員が化粧直しを行った。同社みらい開発研究所シーズ開発センターダイアグノシス開発室の木村朋子室長は「岩木プロジェクトのような大々的なデータは貴重。生活習慣、天候などの外部環境と肌の関係性を解析

し、地域の特徴も明らかにできると期待したい」と話した。

プロジェクトを統括する弘前大学医学研究科附属健康未来イノベーションセンターの三上達也センター長は「これまでの研究では内臓脂肪が増えるほどインフルエンザの罹患者が多いことが分かった。コロナと内臓脂肪の関係についても分かるかもしれない」と述べた。